

第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差を取り、「…ポイントの差」という表現を使っている。
- (注7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (注8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 暮らし全般について【問1～問5】

1 生活総合満足度【問1】

【全体の状況】

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(6.2%)と「どちらかといえば満足している」(49.6%)を合わせた《満足している》(55.9%)は5割台となった。

一方、「たいへん不満である」(5.4%)と「どちらかといえば不満である」(13.7%)を合わせた《不満である》(19.1%)は約2割で、《満足している》が《不満である》を36.8ポイント大きく上回った。

また、「どちらともいえない」(20.3%)は2割であった。(図表1-1-1)

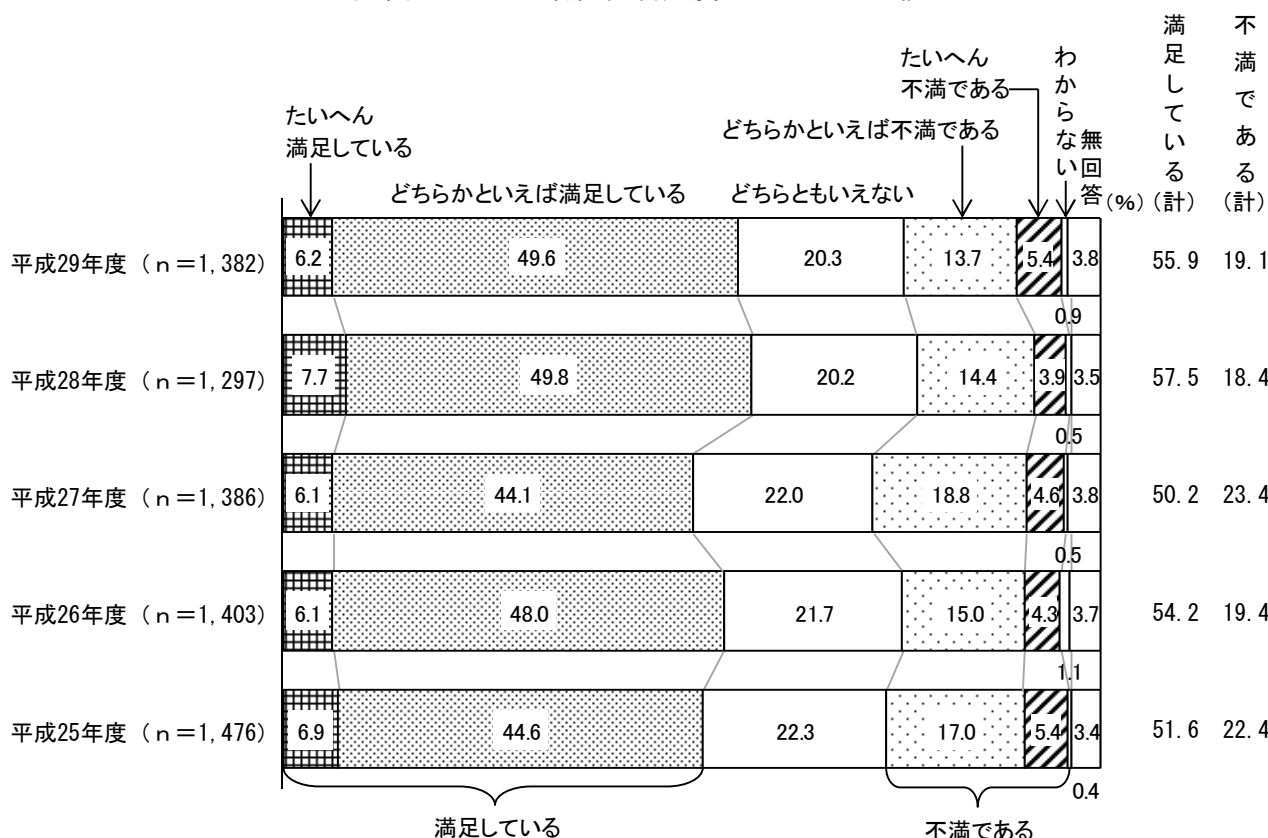
【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、《満足している》では、平成28年度は平成27年度と比べて7.3ポイント増(50.2%→57.5%)であったが、平成29年度は平成28年度と比べて1.6ポイント減(57.5%→55.9%)となった。

一方、《不満である》では、平成28年度は平成27年度と比べて5.0ポイント減(23.4%→18.4%)であったが、平成29年度は平成28年度と比べて0.7ポイント増(18.4%→19.1%)となった。

(図表1-1-1)

図表1-1-1 生活総合満足度—過去との比較

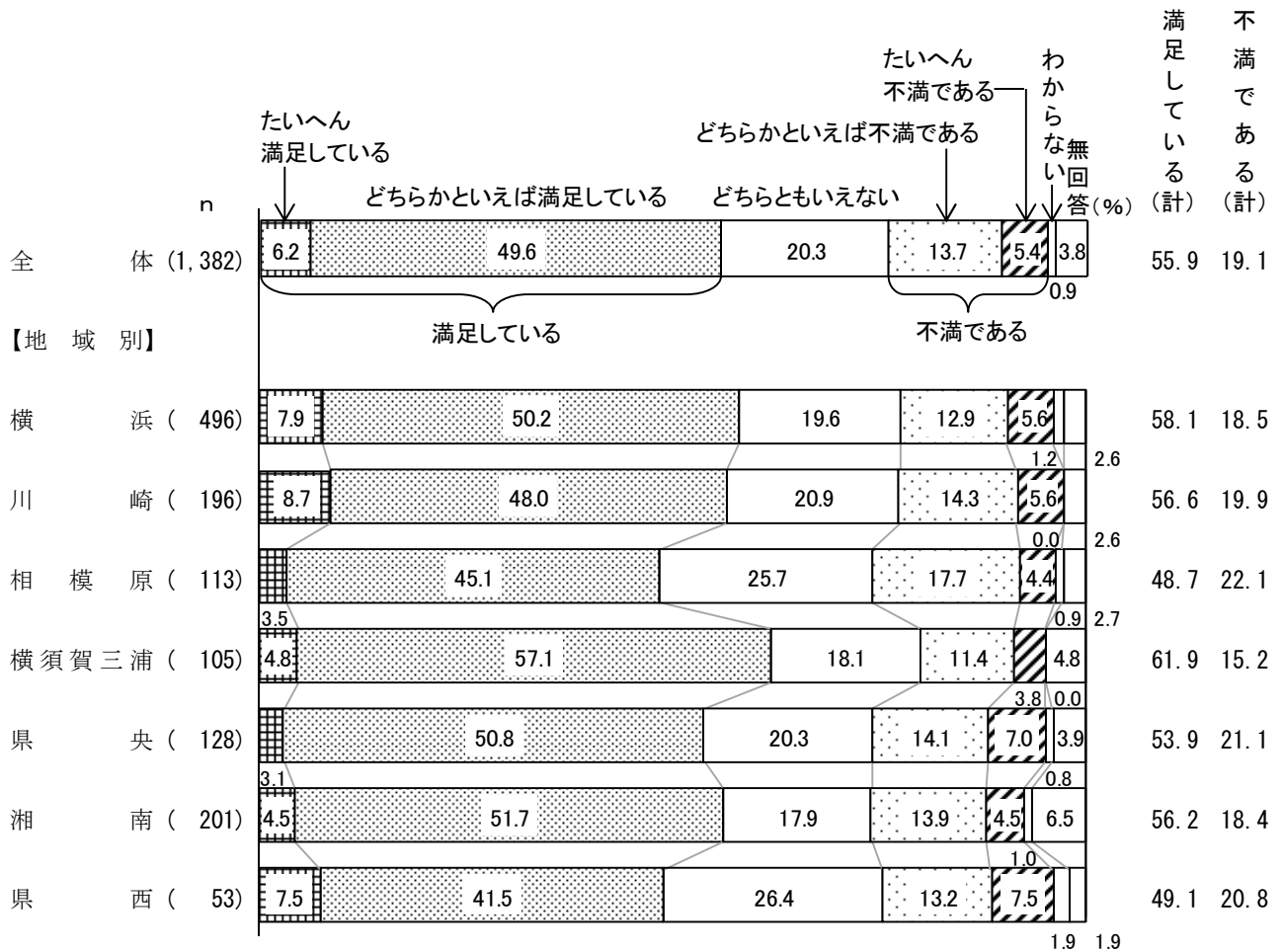


【地域別の状況】

地域別にみると、《満足している》は、横須賀三浦（61.9%）が約6割で最も多かった。

一方、《不満である》は、相模原（22.1%）が最も多く、県央（21.1%）と県西（20.8%）が続いた。（図表1-1-2）

図表1-1-2 生活総合満足度—地域別

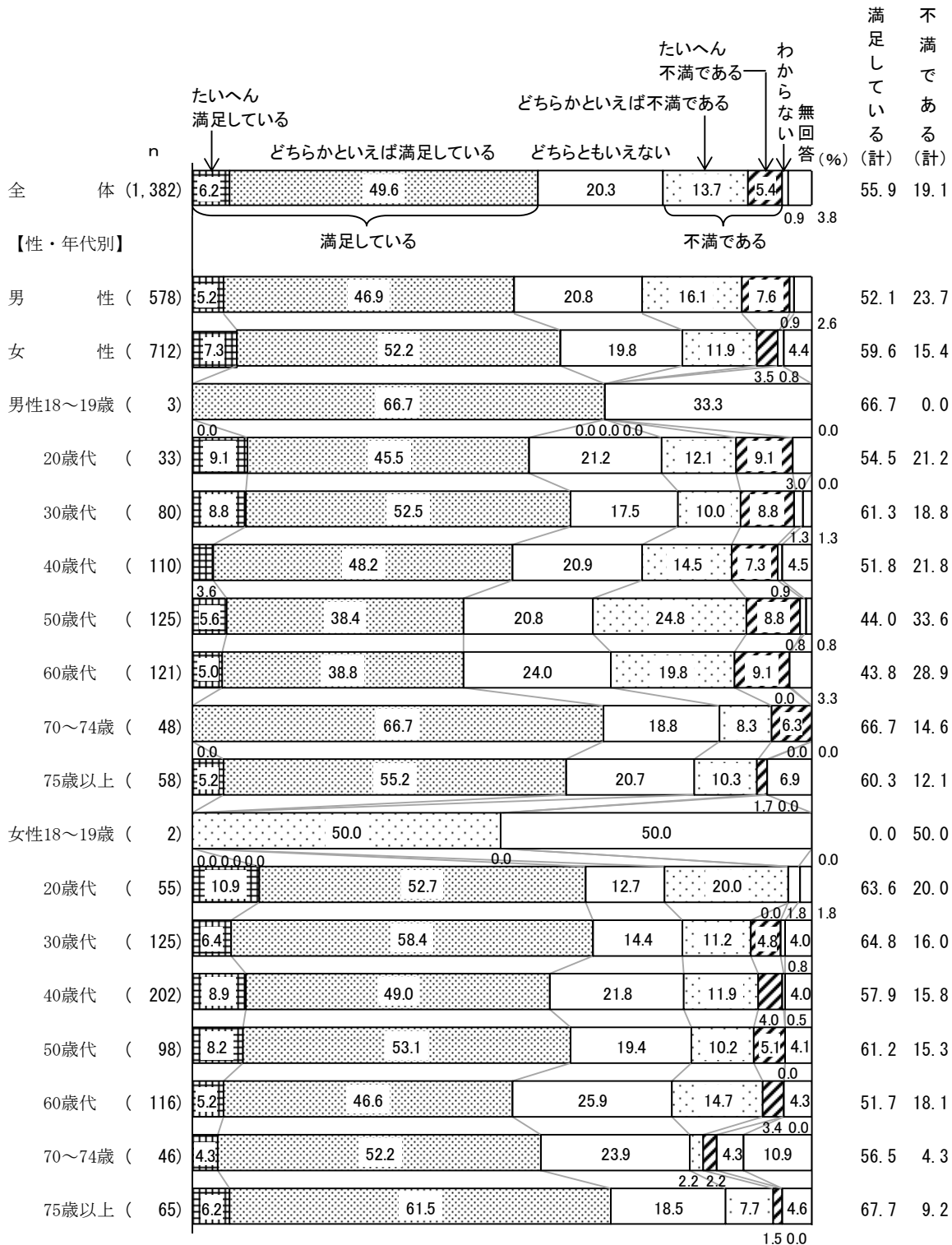


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《満足している》は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、女性の75歳以上（67.7%）が最も多く、次いで男性の70～74歳（66.7%）が多かった。

一方、《不満である》は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男性の50歳代（33.6%）が3割台で最も多かった。（図表1-1-3）

図表1-1-3 生活総合満足度－性・年代別



2 暮らし向きの変化【問2～問2-1】

【全体の状況】

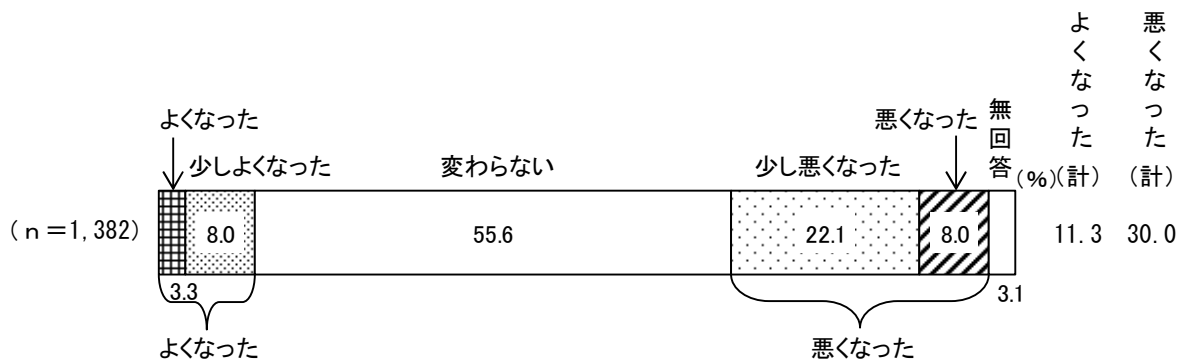
昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(3.3%)と「少しよくなった」(8.0%)を合わせた《よくなった》(11.3%)は約1割であった。

一方、「悪くなった」(8.0%)と「少し悪くなった」(22.1%)を合わせた《悪くなった》(30.0%)は3割で、《悪くなった》が《よくなった》を18.7ポイント上回った。

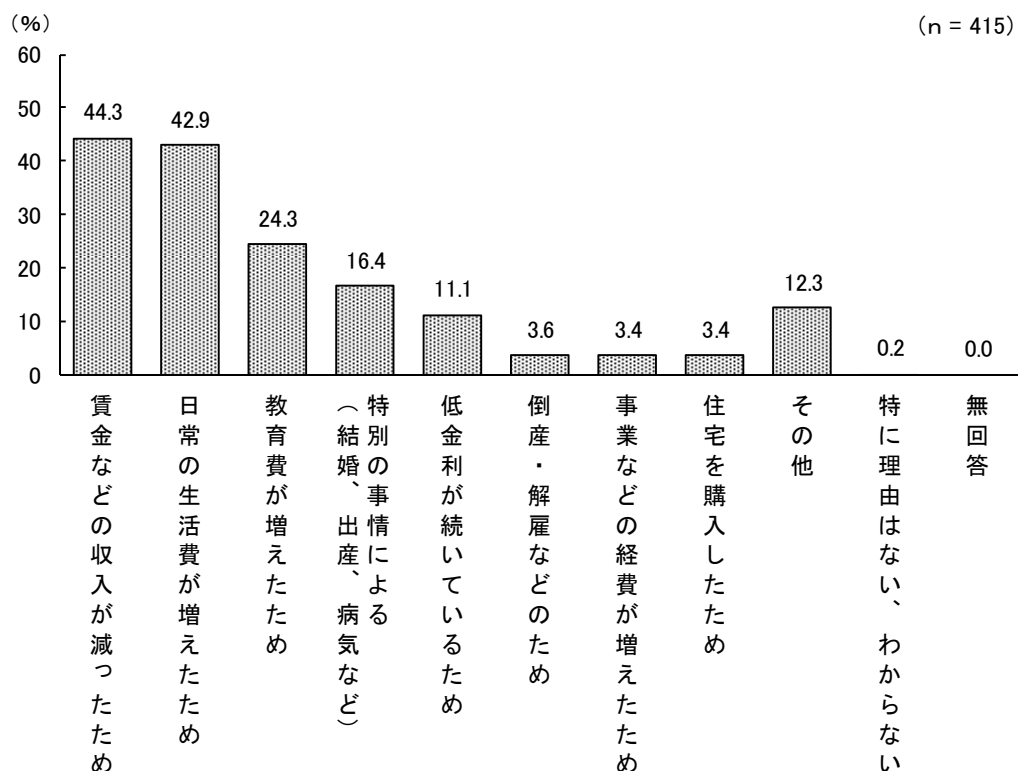
また、「変わらない」(55.6%)は5割台となった。(図表1-2-1)

暮らし向きが《悪くなった》と回答した415人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「賃金などの収入が減ったため」(44.3%)と「日常の生活費が増えたため」(42.9%)がともに4割台で多かった。(図表1-2-2)

図表1-2-1 暮らし向きの変化



図表1-2-2 暮らし向きが悪くなった理由(複数回答)



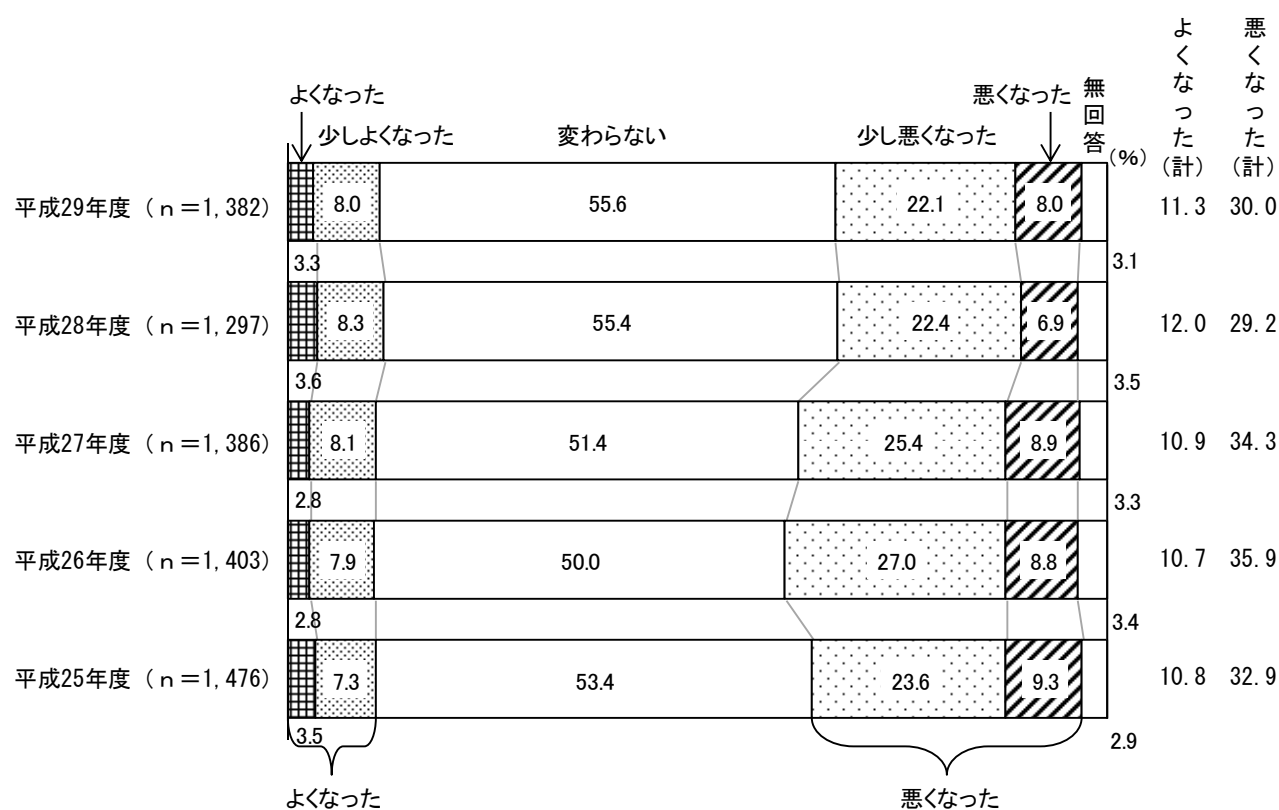
【過去との比較】

くらし向きの変化を過去4年間の調査と比較すると、《よくなった》は、大きな変化はみられなかった。

一方、《悪くなった》では、平成28年度は平成27年度と比べて5.1ポイント減（34.3%→29.2%）であったが、平成29年度は平成28年度と比べて0.8ポイント増（29.2%→30.0%）となった。

（図表1-2-3）

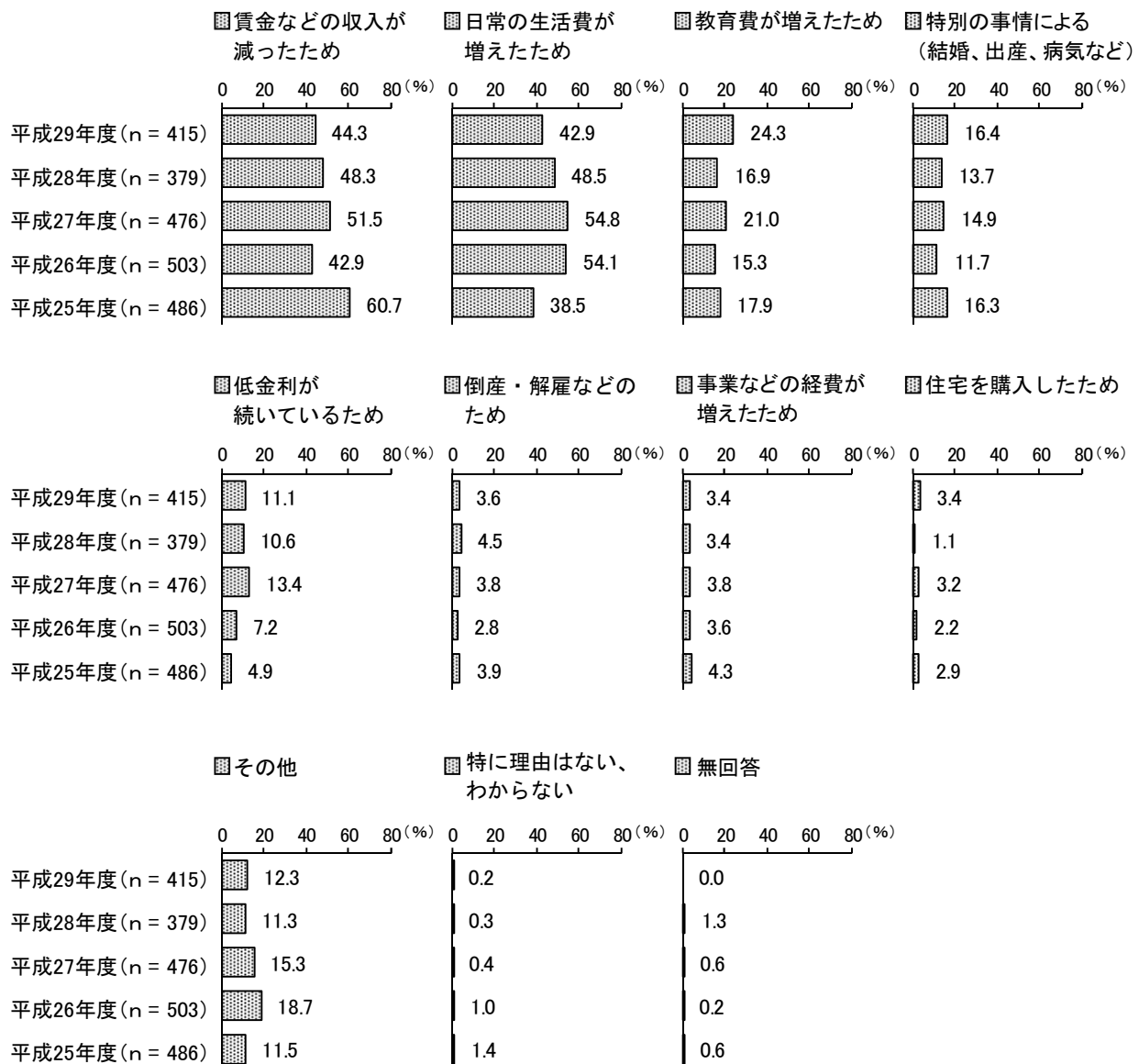
図表1-2-3 くらし向きの変化－過去との比較



暮らし向きが《悪くなった》理由を過去4年間の調査と比較すると、「日常の生活費が増えたため」は、平成28年度と比べて5.6ポイント減(48.5%→42.9%)となり、最も減少した項目であった。

一方、「教育費が増えたため」は、平成28年度と比べて7.4ポイント増(16.9%→24.3%)となり、最も増加した項目であった。(図表1-2-4)

図表1-2-4 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－過去との比較

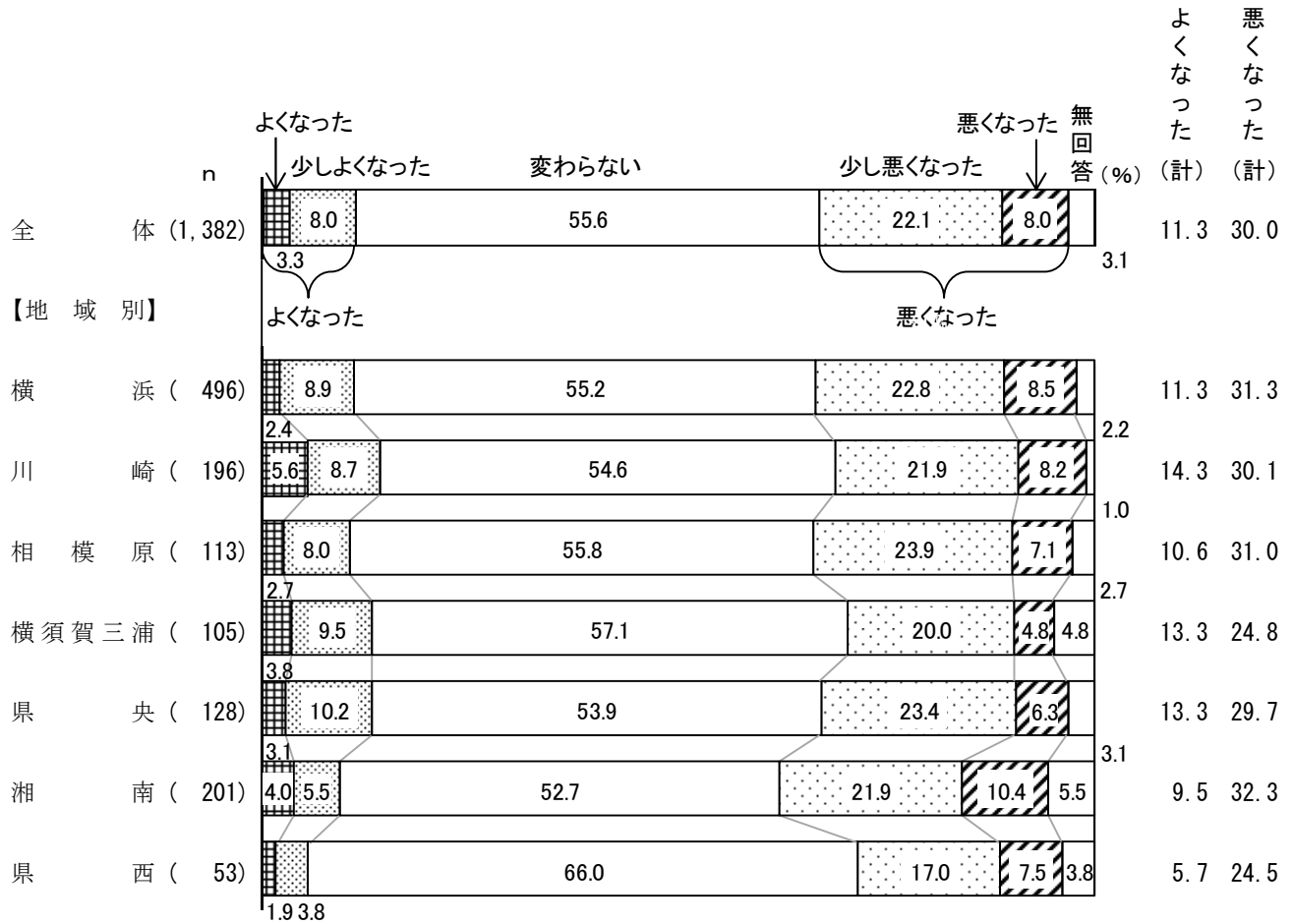


【地域別の状況】

くらし向きの変化を地域別にみると、《よくなった》は、川崎（14.3%）が最も多く、横須賀三浦（13.3%）と県央（13.3%）が続いた。

一方、《悪くなった》は、湘南（32.3%）が最も多く、横浜（31.3%）と相模原（31.0%）が続いた。（図表1-2-5）

図表1-2-5 くらし向きの変化—地域別



くらし向きが《悪くなった》理由を地域別にみると、「賃金などの収入が減ったため」は、横浜（52.9%）が5割台で最も多かった。また、「日常の生活費が増えたため」は、横須賀三浦（57.7%）、相模原（54.3%）がともに5割台で多かった。（図表1-2-6）

図表1-2-6 くらし向きが悪くなった理由（複数回答）－地域別

(%)

	n	賃金などの収入が減ったため	日常の生活費が増えたため	教育費が増えたため	（結婚、出産、病気など） 特別の事情による	低金利が続いているため	倒産・解雇などのため	事業などの経費が増えたため	住宅を購入したため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全 体	415	44.3	42.9	24.3	16.4	11.1	3.6	3.4	3.4	12.3	0.2	-
【地 域 別】												
横 浜	155	52.9	38.7	29.7	12.3	9.7	5.2	3.9	3.9	11.6	-	-
川 崎	59	27.1	40.7	13.6	16.9	15.3	3.4	1.7	-	22.0	-	-
相 模 原	35	42.9	54.3	31.4	17.1	14.3	2.9	-	11.4	8.6	-	-
横 須 賀 三 浦	26	38.5	57.7	34.6	23.1	23.1	-	-	-	3.8	-	-
県 央	38	47.4	31.6	18.4	28.9	15.8	2.6	5.3	5.3	10.5	-	-
湘 南	65	44.6	46.2	18.5	18.5	4.6	3.1	7.7	3.1	12.3	1.5	-
県 西	13	46.2	38.5	23.1	7.7	7.7	-	-	-	7.7	-	-

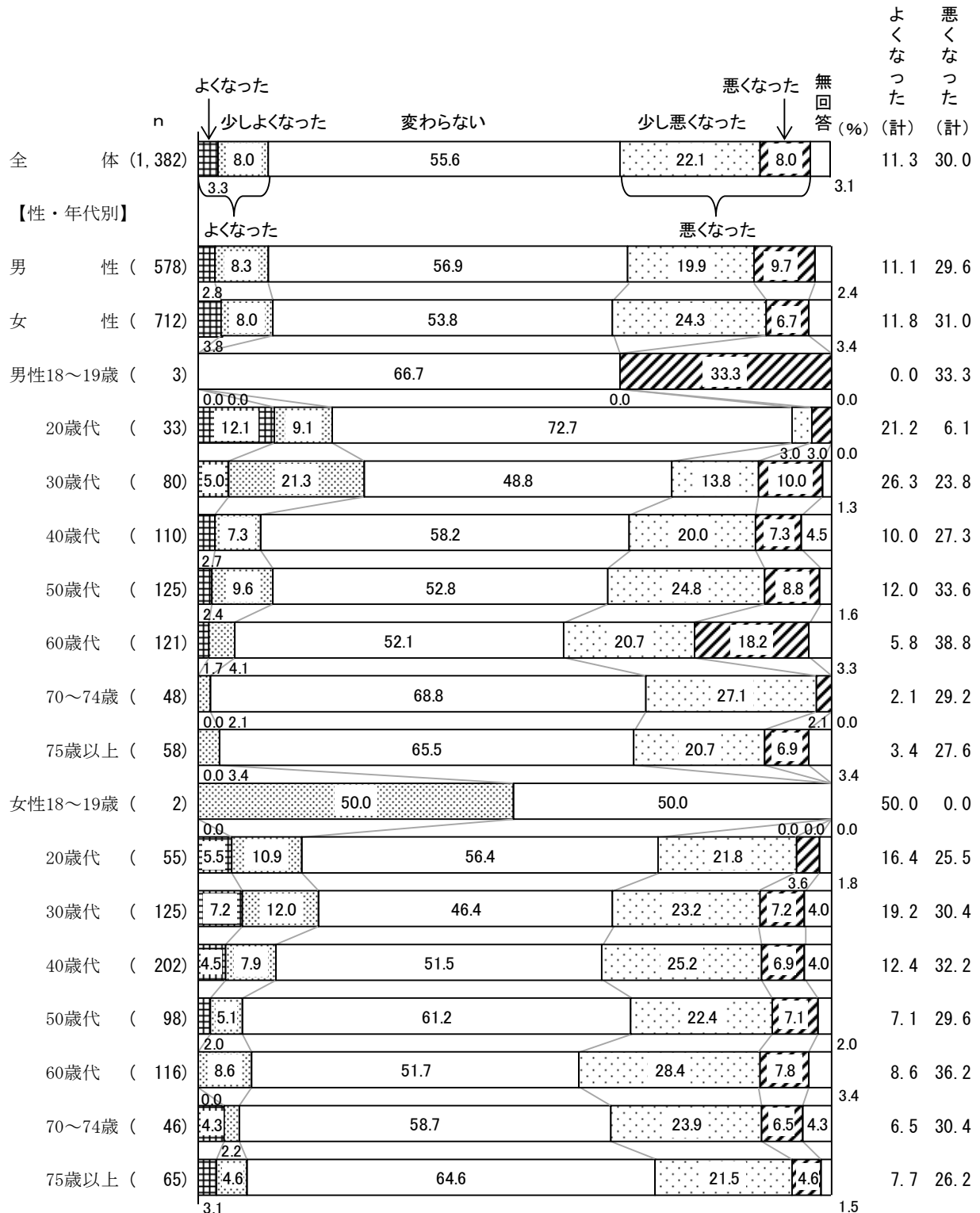
【性・年代別の状況】

くらし向きの変化を性・年代別にみると、《よくなった》は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男女ともに30歳代（男性26.3%、女性19.2%）が最も多かった。

一方、《悪くなった》は、男女ともに60歳代（男性38.8%、女性36.2%）が最も多かった。

(図表1-2-7)

図表1-2-7 くらし向きの変化－性・年代別



くらし向きが《悪くなった》理由を性別にみると、「賃金などの収入が減ったため」は、男性(51.5%)が女性(40.3%)を11.2ポイント上回った。

くらし向きが《悪くなった》理由を性・年代別にみると、「賃金などの収入が減ったため」は、男女ともに50歳代(男性64.3%、女性62.1%)が6割台で多かった。(図表1-2-8)

図表1-2-8 くらし向きが悪くなった理由(複数回答) - 性・年代別

(%)

	n	賃金などの収入が減ったため	日常生活費が増えたため	教育費が増えたため	(結婚、出産、病気など) 特別の事情による	低金利が続いているため	倒産・解雇などのため	事業などの経費が増えたため	住宅を購入したため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全体	415	44.3	42.9	24.3	16.4	11.1	3.6	3.4	3.4	12.3	0.2	-
【性・年代別】												
男性	171	51.5	40.4	21.6	13.5	9.9	5.8	5.3	3.5	10.5	0.6	-
女性	221	40.3	43.4	26.7	19.0	12.7	1.8	2.3	3.6	13.6	-	-
男性18～19歳	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
20歳代	2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
30歳代	19	36.8	52.6	26.3	15.8	5.3	5.3	10.5	5.3	5.3	-	-
40歳代	30	53.3	30.0	63.3	10.0	3.3	3.3	6.7	3.3	-	-	-
50歳代	42	64.3	38.1	23.8	7.1	4.8	9.5	2.4	2.4	7.1	2.4	-
60歳代	47	59.6	34.0	4.3	14.9	10.6	4.3	6.4	4.3	10.6	-	-
70～74歳	14	28.6	57.1	-	14.3	21.4	7.1	-	-	21.4	-	-
75歳以上	16	37.5	56.3	6.3	31.3	31.3	-	6.3	6.3	25.0	-	-
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	14	35.7	42.9	-	28.6	-	7.1	-	14.3	14.3	-	-
30歳代	38	36.8	44.7	28.9	31.6	5.3	-	-	2.6	10.5	-	-
40歳代	65	38.5	44.6	60.0	13.8	7.7	1.5	1.5	4.6	12.3	-	-
50歳代	29	62.1	37.9	24.1	13.8	20.7	3.4	6.9	6.9	10.3	-	-
60歳代	42	50.0	35.7	2.4	11.9	21.4	-	2.4	-	14.3	-	-
70～74歳	14	7.1	64.3	-	21.4	7.1	-	-	-	21.4	-	-
75歳以上	17	23.5	52.9	5.9	29.4	29.4	-	5.9	-	23.5	-	-

3 今後の暮らし向きの見通し【問3】

【全体の状況】

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(4.5%)と「やや明るい」(10.1%)を合わせた《明るい》(14.6%)は1割台であった。

一方、「暗い」(10.7%)と「やや暗い」(26.6%)を合わせた《暗い》(37.3%)は3割台となり、《暗い》が《明るい》を22.7ポイント大きく上回った。

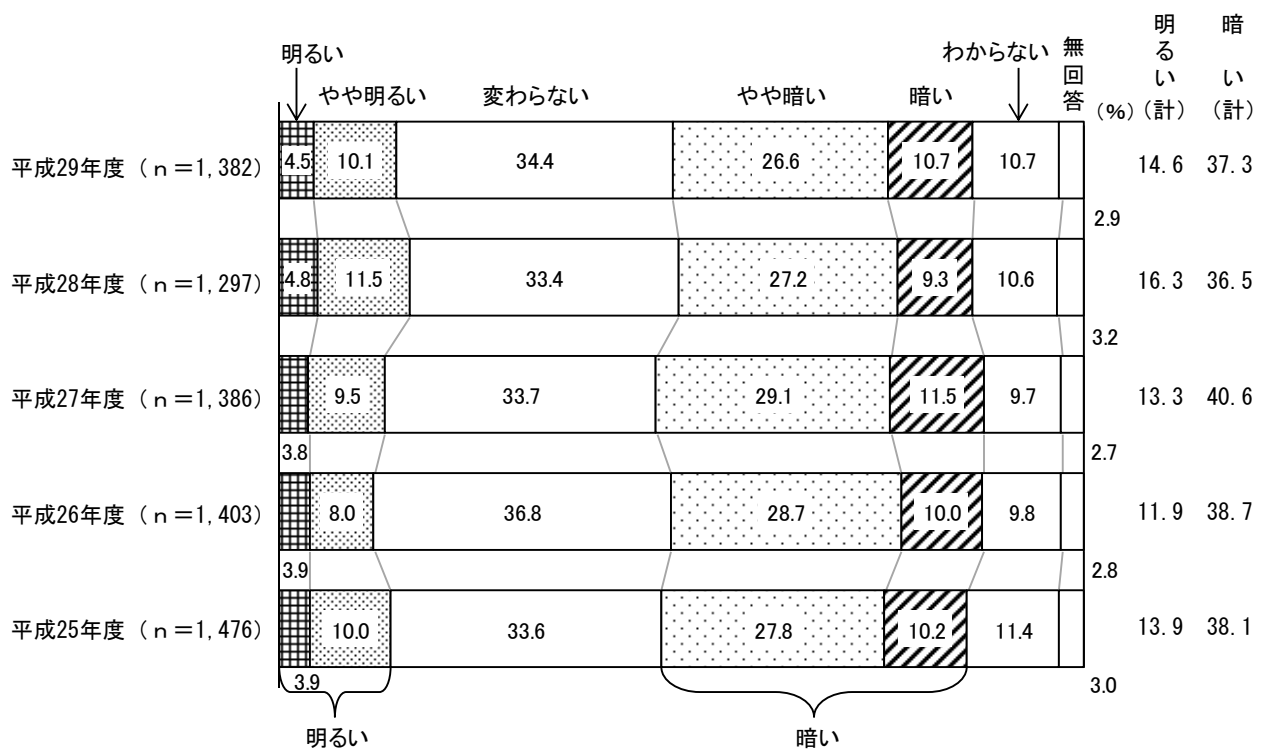
また、「変わらない」(34.4%)は3割台であった。(図表1-3-1)

【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、《明るい》《暗い》ともに大きな変化はみられなかった。

(図表1-3-1)

図表1-3-1 今後の暮らし向きの見通し—過去との比較

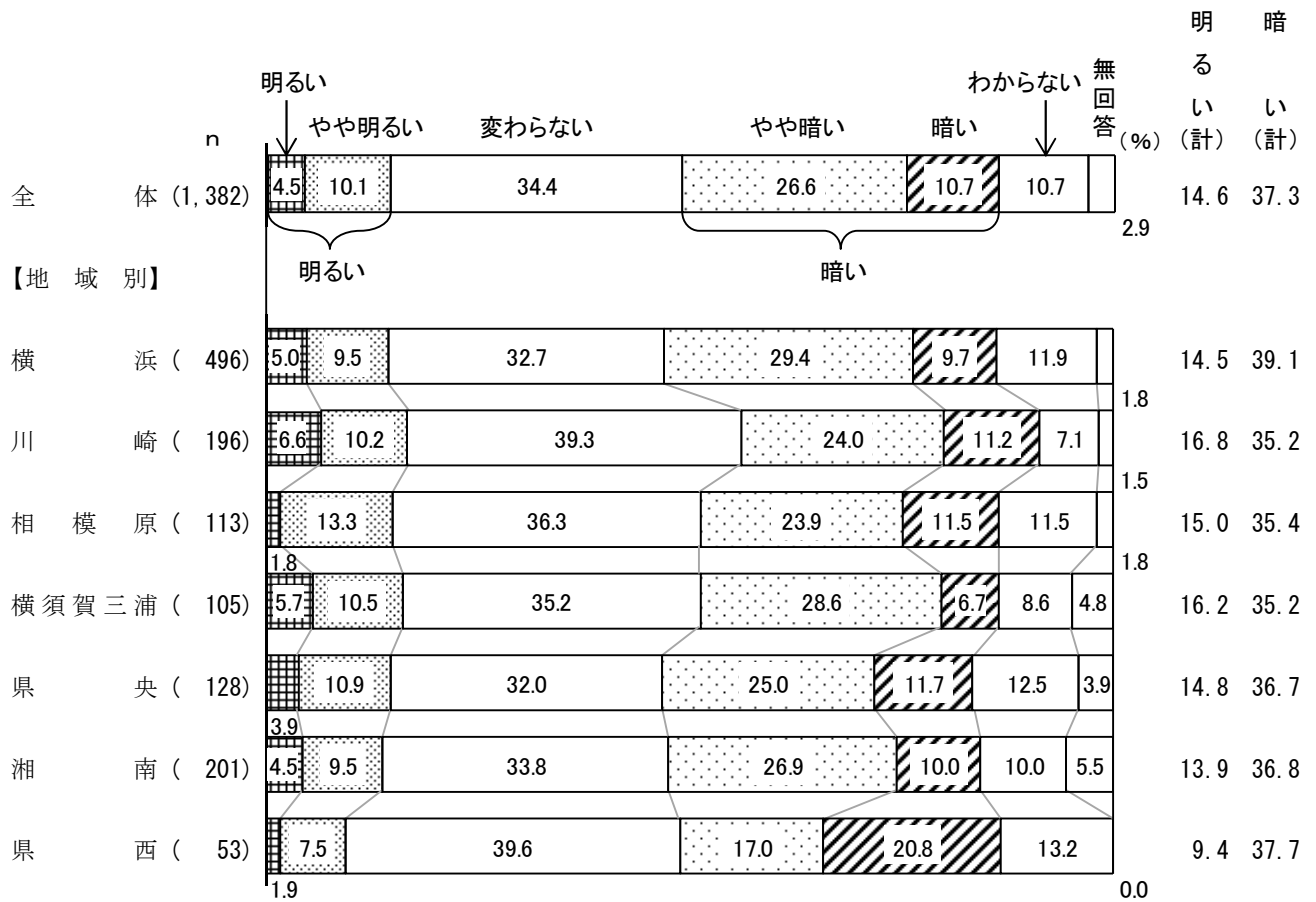


【地域別の状況】

地域別にみると、《明るい》は、川崎（16.8%）が最も多く、次いで横須賀三浦（16.2%）が多かった。

一方、《暗い》は、横浜（39.1%）が約4割で最も多かった。（図表1-3-2）

図表1-3-2 今後の暮らし向きの見通し—地域別



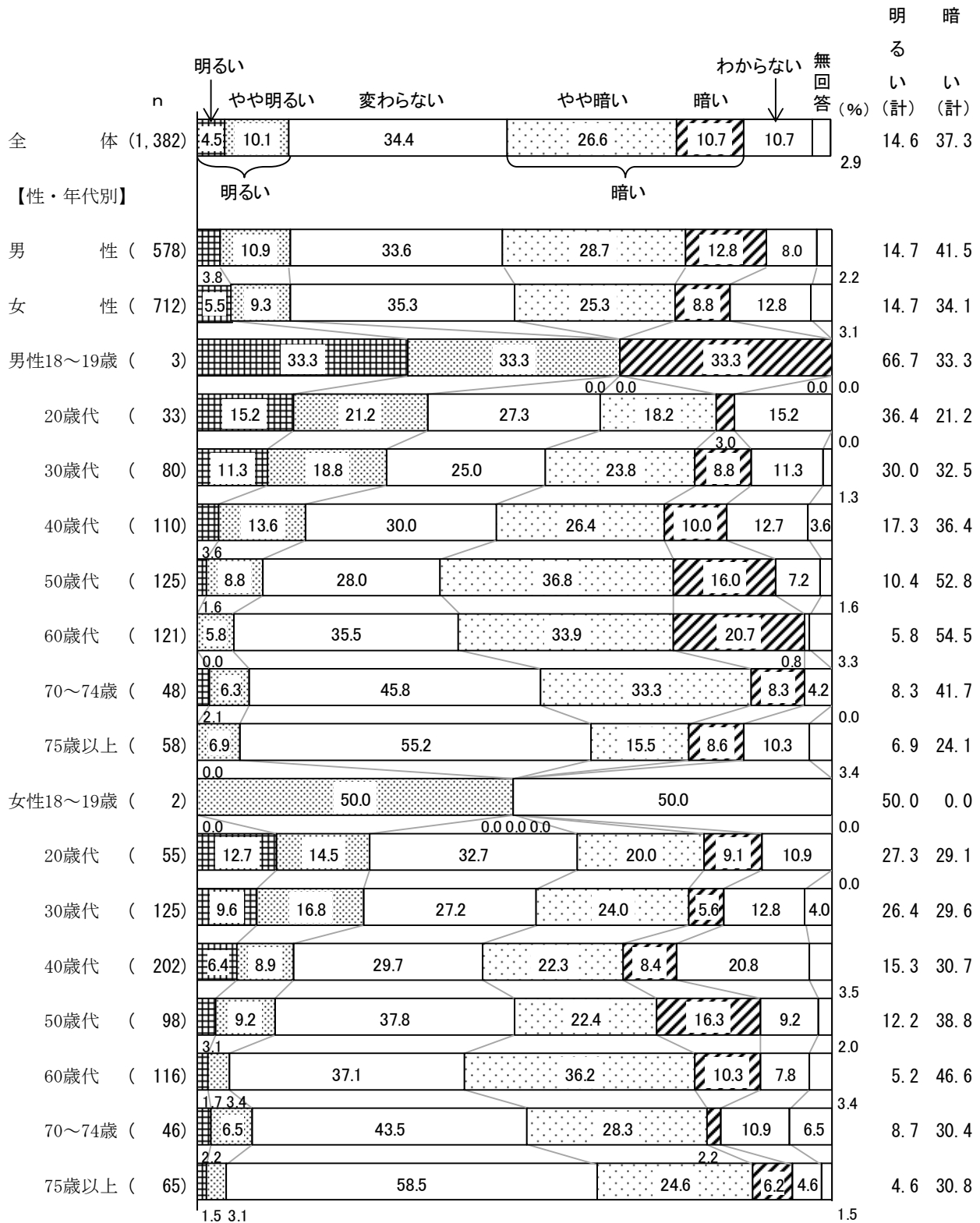
【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《明るい》は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男女ともに20歳代（男性36.4%、女性27.3%）が最も多かった。

一方、《暗い》は、男女ともに60歳代（男性54.5%、女性46.6%）が最も多かった。

(図表1-3-3)

図表1-3-3 今後の暮らし向きの見通し－性・年代別



4 地域の住みよさ【問4】

【全体の状況】

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(14.5%)と「どちらかといえば住みよい」(52.7%)を合わせた《住みよい》(67.2%)は6割台となった。

一方、「たいへん住みにくい」(1.6%)と「どちらかといえば住みにくい」(9.9%)を合わせた《住みにくい》(11.5%)は約1割で、《住みよい》が《住みにくい》を55.7ポイント大きく上回った。

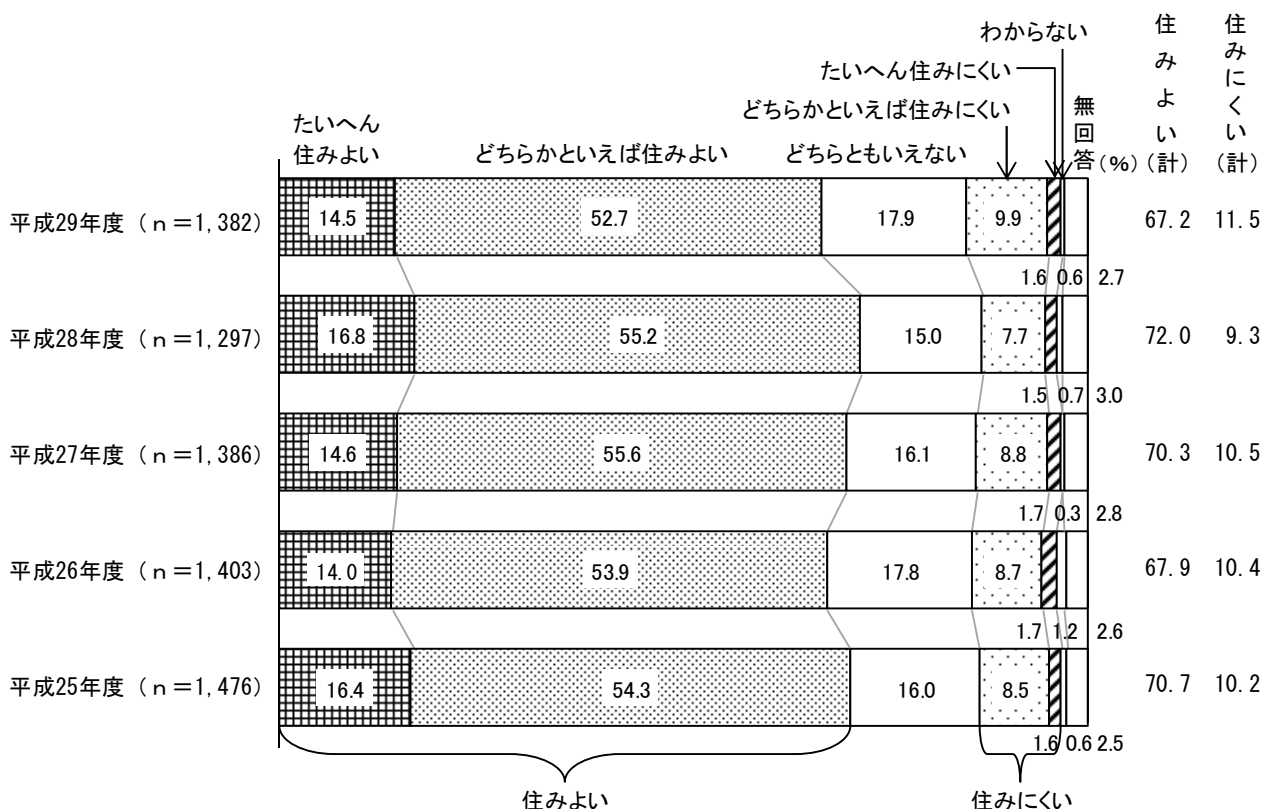
(図表1-4-1)

【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、《住みよい》《住みにくい》ともに大きな変化はみられなかった。

(図表1-4-1)

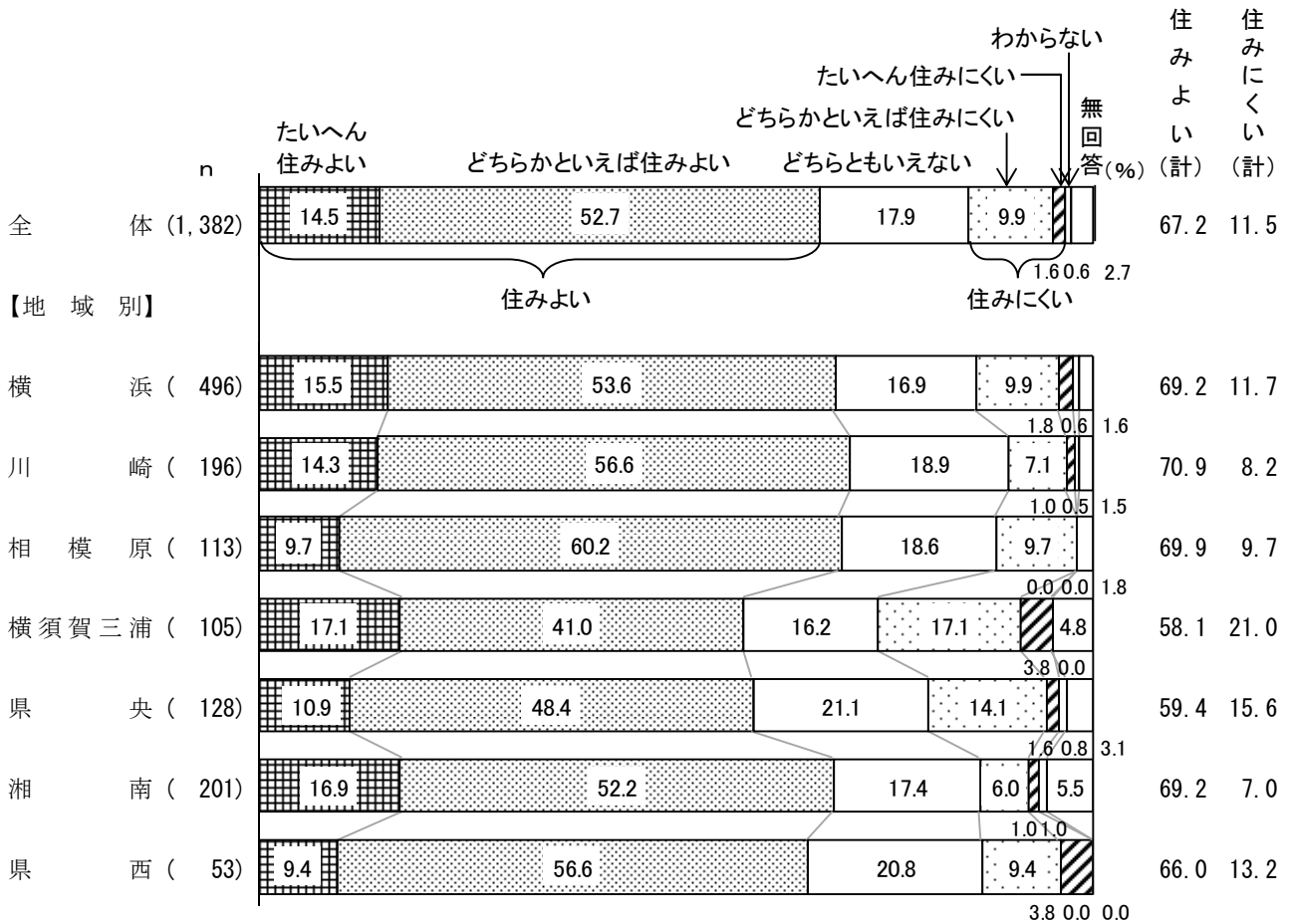
図表1-4-1 地域の住みよさー過去との比較



【地域別の状況】

地域別にみると、「住みよい」は、川崎(70.9%)が最も多く、次いで相模原(69.9%)が多かった。一方、「住みにくい」は、横須賀三浦(21.0%)が約2割で最も多かった。(図表1-4-2)

図表1-4-2 地域の住みよさー地域別

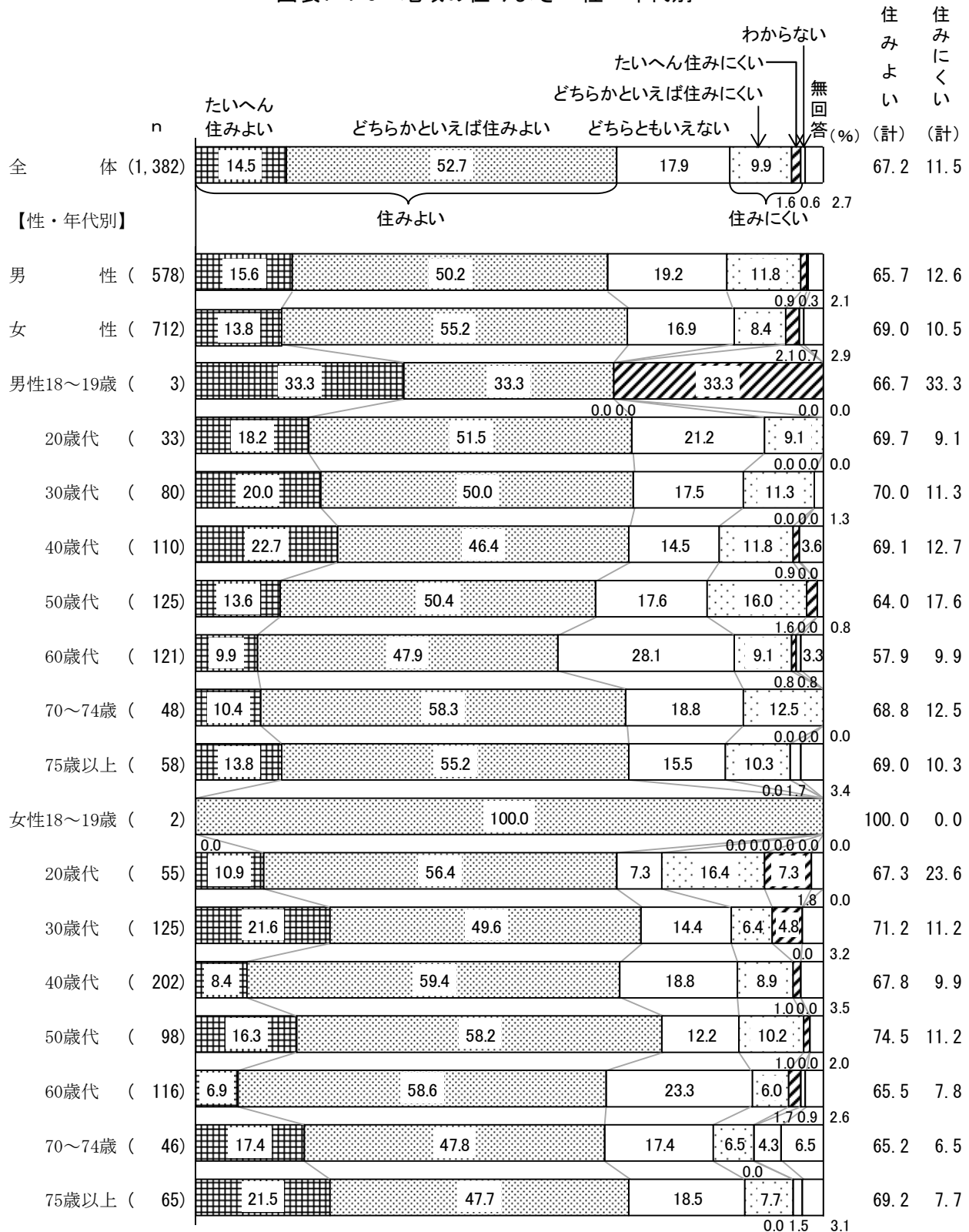


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《住みよい》は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、女性の50歳代(74.5%)が7割台で最も多く、男性の60歳代(57.9%)が5割台で最も少なかった。

一方、《住みにくい》は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、女性の20歳代(23.6%)が2割台で最も多かった。(図表1-4-3)

図表1-4-3 地域の住みよさー性・年代別



5 定住意向【問5】

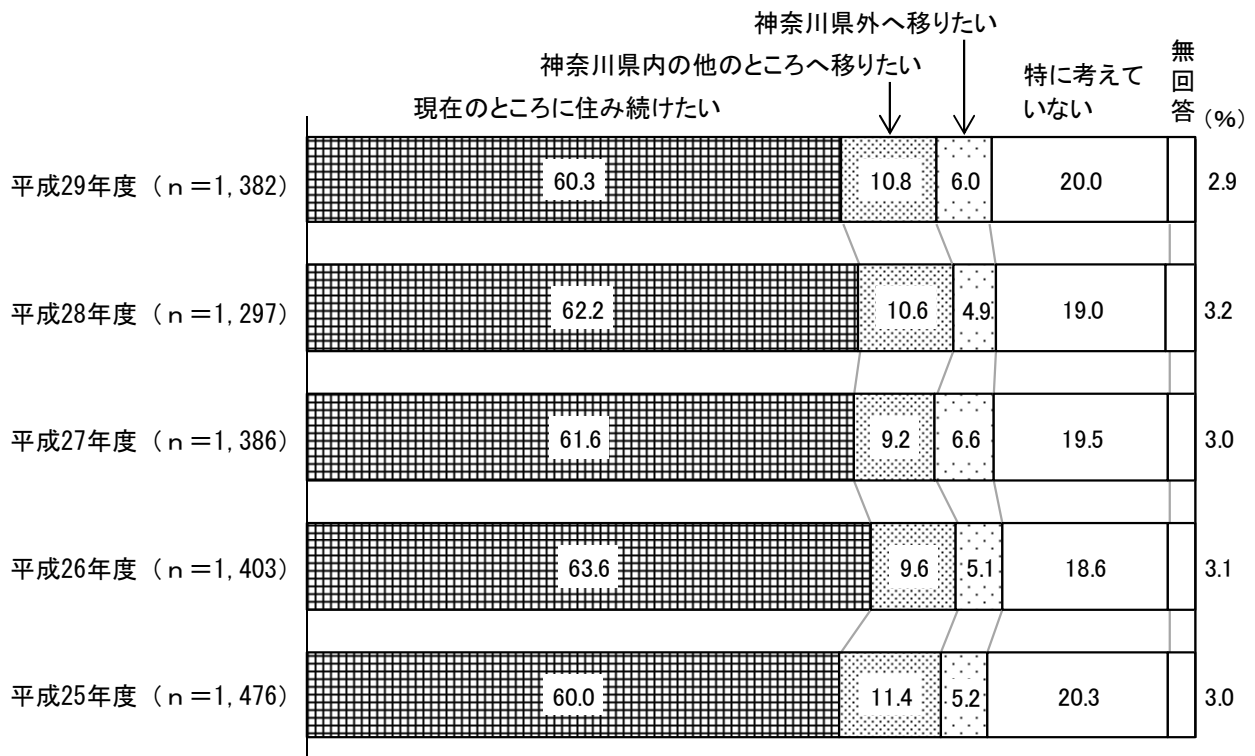
【全体の状況】

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」（60.3%）が6割で最も多く、「神奈川県外へ移りたい」（6.0%）は1割に満たなかった。（図表1-5-1）

【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、「現在のところに住み続けたい」「神奈川県内の他のところへ移りたい」「神奈川県外へ移りたい」は、それぞれ大きな変化はみられなかった。（図表1-5-1）

図表1-5-1 定住意向－過去との比較

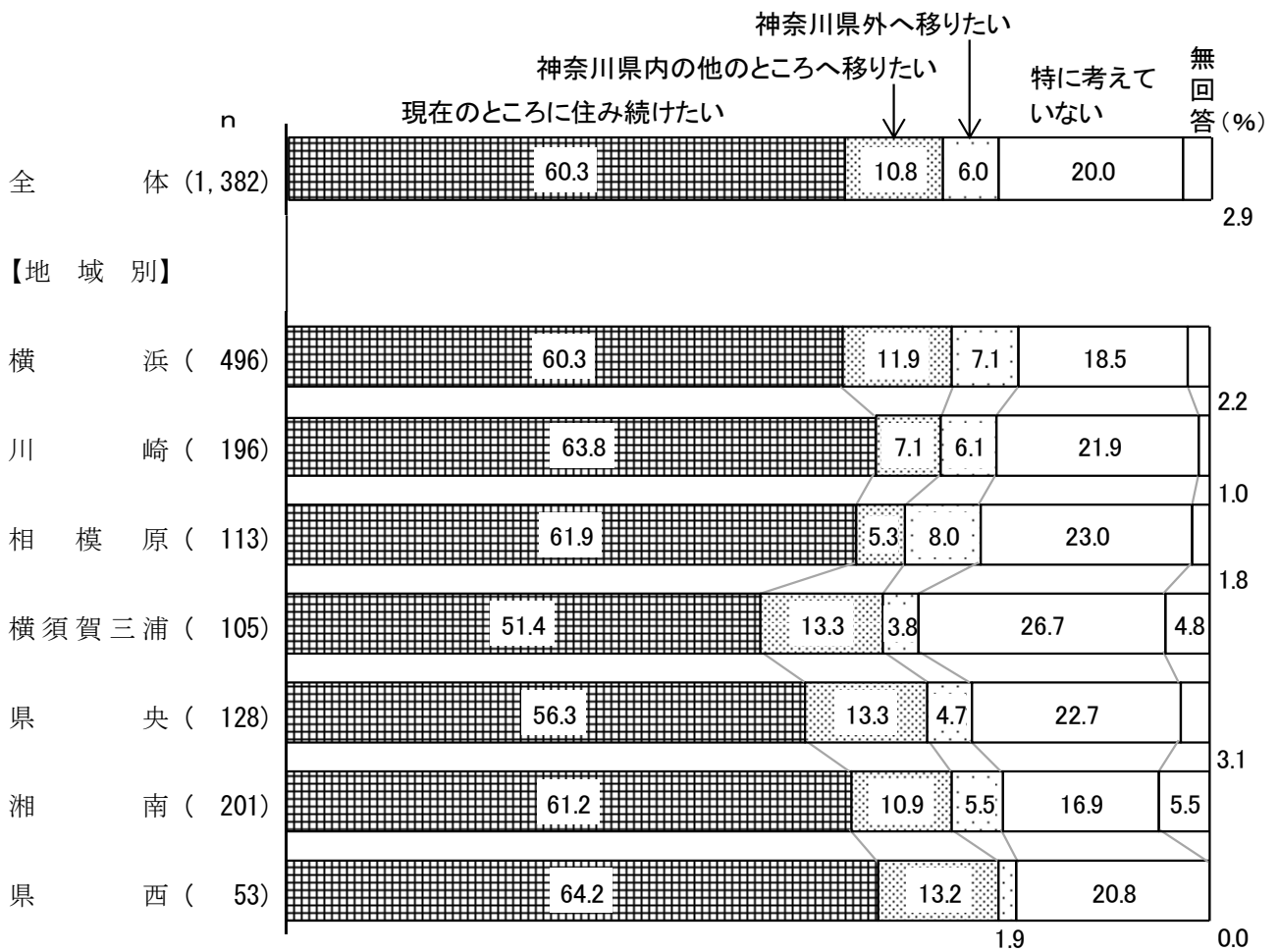


【地域別の状況】

地域別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、県西（64.2%）が最も多く、川崎（63.8%）と相模原（61.9%）が続いた。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、横須賀三浦（13.3%）と県央（13.3%）がともに多く、県西（13.2%）が続いた。（図表1-5-2）

図表1-5-2 定住意向—地域別



【性・年代別の状況】

性別にみると、男女で大きな差はみられなかった。

性・年代別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男性の70～74歳(72.9%)・75歳以上(70.7%)、女性の75歳以上(73.8%)がそれぞれ7割を超えて多かった。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、女性の20歳代(21.8%)が約2割で最も多かった。(図表1-5-3)

図表1-5-3 定住意向－性・年代別

